

第 2 回総論部会におけるご意見等の概要と対応状況

1 1 (6) について、「平易かつ適切な」は「平易な」だけでよいのではないか (春川委員)。

→ そのように修正する (辻部会長)。

※後で変更。

対応：修正しない (たたき台のまま)

2 3 (5) について、これでは行政がより主体的に取り組むべきかどうかが不明確である。資料 3 の No.24 にあるように「行政の責任ある主体的取組みをしっかりと記述」ということではないか (春川委員)。

→ 行政のあり方については、全体的な整理の中で表現を検討していくことになるが、そのような認識が大前提にあることは間違いない (辻部会長)。

対応：修正しない (たたき台のまま)

3 4 (2) について、地域経済の活性化は、財政再建のためにも大きな課題であり、別項目として記載すべきではないか (花澤委員)。

→ 分野別計画とのバランスを見ながら、記述について検討したい (部長)。

→ 分野別計画には、財政再建について具体的に記述するという認識でよいか (花澤委員)。

→ 地域経済は一概に財政再建では括れないので、分野別計画の議論も踏まえて検討する (部長)。

→ 市としてできることに制約があるにせよ、市民生活の土台でもあるので、少なくとも要望としては、4 (3) として、別立てで記載することとしたい (辻部会長)。

対応：修正する (4 の (2) として項目を立てて記述)

4 1 (6) の「平易かつ適切な」について、データの適切な選択は重要 (例として、p25 「社会貢献への考え方」について、全国データよりも県なり市の地域性のあるデータのほうがよい) なので、修正しないほうがよい (鍋嶋委員)。

→ 修正しないこととする (辻部会長)。

対応：修正しない (たたき台のまま)

5 地域経済の活性化については、商店街など、まちづくりの基本なので、もう少し大きく扱ってもよいのではないか (鍋嶋委員)。

対応：修正する (4 の (2) として項目を立てて記述)

6 1 (1) と (3) が意味合いとして近いので、順序を変更してはどうか。また、内容が「千葉市ならではの地域資源」など、抽象的という感想 (轟委員)。

→ 答申案はこれとして、かみくだいてどういう内容にしていくのかは、今後議論していきたい (辻部会長)。

対応：修正する ((2) → (1) → (3) の順に並び変える)

7 地域経済の活性化は、雇用の面から都市構造に位置づけてもよいのではないかと (轟委員)。

→ p33・34 で記載しているが、弱いということであれば検討する。ただし、なかなか難しい面がある (部長)。

→ 都市構造の中で書くか、別立てで書くかどうか。関連意見はあるか (辻部会長)。

→ 生活機能拠点がイメージしにくい (鍋嶋委員)。

→ 集約型都市構造についての説明が不足していると認識しており、郊外の将来的な住み替えも含め、よりていねいに説明していきたい (部長)。

→ 一般に、地方都市は商業が郊外化しており、首都圏ではそれなりに鉄軌道周辺に張り付いている傾向があるが、事実認識として、千葉市では本当に駅周辺に諸機能が張り付いていると言えるのか、精査すべきである。

また、地域経済をどの部分で書くかという点について、これまでは、都市構造を変えながら経済発展に寄与してきた歴史があるが、今後は、現在の都市構造を前提に、どう経済を活性化していくかを考えていく話になる。したがって、都市構造は前提としてありつつも、別立てで書いた方がよいのではないかと (辻部会長)。

→ 4 (3) で、産業・雇用に焦点を当てて記載いただければと思う (轟委員)。

対応：修正する (4の(2)として項目を立てて記述)

8 首都圏や県都など、広域的な役割について、もっと書いてもよいのではないかと (轟委員)。

→ 千葉県でも南北問題があり、あまり書いて北部重視に見えてもいいことはないが、必要な部分については、もう少し充実させてもよい (辻部会長)。

対応：修正する (2の(5)として項目を立てて記述)

- 9** 実現すべきまちの個性の教育の部分で、たとえば、きぼ一るに科学館ができてそこで学んだとか、動物公園でいろいろなものを見せたとか、より具体的な記述で表現してほしい（高山委員）。
- 基本計画としては、具体的な方法についての記述はなかなか難しい（部長）。
 - せっかくの具体的な提案なので、実施計画なりで活かしては如何か（岩崎副部長）。
 - 教育については、基礎体力や少人数学級の話なども含めてになるので、限定的な記述は難しいと思うが、問題提起として事務局で受け止めてほしい（辻部会長）。

対応：修正しない（たたき台のまま）

- 10** ストーリー性について、この計画自体の具体的な目標が必要と考える。
- 「ゆとりと活力を生む、個性豊かなまちづくり」がよいのではないかと（木村委員）。
- 基本構想の目標は、家訓・社訓みたいなもので、世俗の世界とは位相が異なる。今、少子高齢化に伴って現れる具体的な課題や不安にどう応えていくかという視点が必要。「理念と理念を結びつけるところなる」というだけではなく、「具体的な課題に対する、筋道立てられた処方箋」という両面をしっかりと考えながら、具体性・ストーリー性を組み立てることが必要（辻部会長）。

対応：修正しない（たたき台のまま）

- 11** 高山委員の意見（資料2のNo.38）は、障害者のアクセス権に不自由な点があるということであり、たとえばp30「みんなの力で支えあうまち」の「・こどもと高齢者などの多世代交流により・・・」といった中に障害のある人もない人もという観点が入ってくるべきだと思う。
- 4（1）に「障害福祉」という表現があるが、バリアフリーやアクセス権などは福祉の範疇に入らないと思われる。障害者の問題は福祉から基本的人権の問題に移行する過渡期にあり、障害者の教育や文化へのアクセス権といった視点、市民の側でもやっていくような発想を盛り込んでいくべきであり、「障害福祉」という表現は用いない方がよい（大高委員）。
- 総論でどこまで書きこむか。分野別計画の議論を踏まえて検討したい（部長）。
 - 高齢化が進めば障害者も増える。障害者についてはハード・ソフト両面があるが、たとえば都市構造にはバリアフリーについて記述しているか？（辻部会長）
 - 記述していない（事務局）。
 - ハードについては然るべき記載をしていただき、ソフトについては分野別計画を含め、ふさわしい場所で書くということかどうか（辻部会長）。

対応：修正する（4の（1）で表現を変更するとともに、障害者のアクセス権を追加）

12 たたき台では「充実させること」「具体性を高めること」「より強く記述すること」など、いろいろな表現が使われているが、この表現によって対応に温度差がつくのか（大澤委員）。

→ 意見の趣旨を踏まえた表現としている。温度差をつける目的ではない（課長）。

対応：修正しない（たたき台のまま）

13 4（2）について、雇用は経済と表裏一体なので、しっかり記述してほしい（鶴澤委員）。

→ 4（3）として個別に記述する（辻部会長）。

対応：修正する（4の（2）として項目を立てて記述）

14 2（4）について、「実現可能性よりも」とあるが、ハードルを高く設定したほうがよいという思いで発言しており、表現は再考してほしい（宇佐見委員）。

→ 「実現可能性よりも」を「長期的な観点から」に修正する（辻部会長）。

対応：修正する（「長期的な観点から」に表現を変更）

15 集約型都市構造について、富山市や青森市の例を踏まえると、都心部は開発するが、都心以外は既存のインフラをどう活用していくのが課題。千葉市でももう少し具体的な方向性を書けるとよいのだが（宇佐見委員）。

→ 集約型都市構造の概念は、事務局でも曖昧であり、具体的にどうしていくのかは議論が煮詰まっていない状況（部長）。

→ シンポジウムでもそうだったが、抽象レベルではOKだが、具体的には非常に難しい。都市の限界集落の問題など、現在の構造をどうしていくのかは、本計画で明らかにするのではなく、計画期間を通して、この計画を回している間に少しずつ合意形成していくしかないのではないか。千葉市としては少なくとも自己矛盾（都心部も郊外も開発する）を起こさないようにすべき。全体のコンセプトははっきり出すとしても、具体的な土地利用までは無理だろう。ただし現在の、拠点の少しそらぞらしい書きぶりは直すべき。

現在、国交省の委員もやっているが、今後の土地利用政策はなかなか結論が出ない状況であり、地方から実践していかなければならない状況だと思う。

2（2）だけでなく、2（1）についても、市民WSや庁内WGにとどまらず、もう少しコンセプト（？）がわかるような記述にしてほしい（辻部会長）。

対応：修正する（2の（1）において、コンセプトや取組みの考え方について記述）

※市民WSや庁内WGについては、1の（4）で読み取ることとする。

16 地域経済の活性化について、企業では収入と支出の両面を意識してやっており、行政としても、この計画で、収入面をきちんと意識しているというサインボードをしっかり立てて実施計画などにつなげてほしい（伊東委員）。

→ 4（3）を項目立てすることで対応（辻部会長）。

対応：修正する（4の（2）として項目を立てて記述）

17 将来人口推計や財政状況を読むとブルーになる。希望が見えるとよい。

P10 以降の将来人口推計の中で、要介護認定者数の推移を入れてはどうか（伊藤委員）。

→ 現状値はあるが推計値としては検討しないとわからない（課長）。

→ 推計は現状を直線的に延ばすかたちになるので、千葉市でも後期高齢者が激増するため、要介護認定者も増えてしまうと思う（辻部会長）。

対応：修正しない（たたき台のまま）

18 障害者のソフト施策として、市民WSでも議論した心のバリアフリーや幼老障統合ケアといったものについても記述してはどうか（伊藤委員）。

→ 幼老障統合ケアについては、分野別計画も踏まえて検討したい（課長）。

→ これからは、これまで作ってきた（昔はなかった）資産を活かしながら、より長生きするということが本来いいこと。しかし「より豊かに、長い人生を送る」というメッセージが原案では抜け落ちており、ここがわかるようにしてほしい。心のバリアフリー等については、まちの個性やコンセプトの中、あるいは分野別計画も含めて、ふさわしい場所で適切な対応をお願いしたい。4（1）で可能ならば載せてほしい（辻部会長）。

対応：修正する（4の（1）で、心のバリアフリーを追加）

※幼老障統合ケアについては、各論の内容となるため、答申（案）には記載しないこととする。

19 同世代の状況を見ていると、定年退職を迎え、郊外には行きたいが、不便だというジレンマがある。郊外でも便利という、可能か不可能かわからないが、そういうコンセプトがあってもよいのではないか。また、高齢化した社会に活力を与えるのは子どもや若者であり、今後、分野別計画を議論していく中で、子どもや若者に関する施策がたくさん盛り込まれるとよいと考えている。

（以上感想、池谷委員）

対応：修正しない（たたき台のまま）

20 ストーリー性については、成長なき中でも豊かな社会を保障するという、強いメッセージが必要。雇用という最低限のものを確保しながら、地域経済を活性化させ、豊かな千葉市を作っていくことが重要（岩崎副部会長）。

対応：修正する（４の（２）として項目を立てて記述）

21 ４（２）については、各論が多く盛り込まれており、議論が必要。「働く母親の就労支援」と記述されているが、「就労」の支援か「就業」の支援かという問題や、若年層の非正規雇用の問題など多くの課題があり、より大きな「雇用」の概念でとらえ直したほうがよいのではないか。ちなみに、答申案で書くという意味ではないが、海外では、若年層の就業支援として生涯学習に力を入れてきている。また、ICTの活用についても、各論に入りすぎている。情報をどう周知するかというテーマだと思うので、表現を再考したほうがよい（岩崎副部会長）。

対応：修正する（４の（２）（３）の表現を変更）

22 たたき台の「その他の意見」は、最終的な答申に入れるのか（春川委員）。
→ 入れる（辻部会長）。

対応：修正しない（たたき台のまま）